

夏合宿 監督・選手インタビュー

「(上半期は)全体的にトラックの試合でいい記録を出してくれた。強い選手たちが、自己ベストを出してくれ、下の選手も同様に自己ベストを出してくれた。一番安定し始めたのが、2年の窪田。出る試合毎回確実に走り、いいときと悪いときの波が少ないので、今たよりになる選手のひとり。1年の中では、村山・大谷・中村の3人が13分台に入っている。今後が楽しみ。(夏合宿では)脚力の強化のための走りこみ、インターバルトレーニングで心肺機能の強化、我慢強さやねばれるような選手になるための、精神的な強化を行なった。(今年、主将と副主将を分けなかった理由は)去年の飯田は、練習のなかで引っぱっていくところが薄かったたので、それができて尚且つ選手をまとめられる強い選手であった井上に今年は両方任せようと思った。(三大駅伝の目標は)もうとにかく今年優勝。全て優勝するくらいの気持ちで臨みたい。ライバル校は早稲田・東洋・東海」



大八木弘明監督



井上翔太主将

「(上半期は)個人的にはあまりよくはなかった。記録会ではまずまずの走りだった。(チームとしては)関カレではない結果を残せず課題が残ったが、記録会でいい結果を出してくれたのでよかった。(1年生の印象は)練習や環境に慣れるのに大変だったと思うが、何人かはAチームで練習に参加しているので、頑張っしてほしい。(夏合宿での目標は)故障しないことが一番。あとはAチームでの練習をしっかりと継続して、距離を踏むこと。(夏合宿で主将としては)練習で気になったところをアドバイスするようにしている。伝統ある駒澤大学の陸上部の主将を任されているので、プレッシャーはあるが、それがあからこそ頑張れるので、意識しすぎないようにしている。駒大で注目している選手は)特に名前を挙げるわけではないが、下級生みんな。(他大学のライバルは)東洋・早稲田大学ですかね。(三大駅伝に向けての意気込みは)三大駅伝を目標としてやっているの、優勝目指して頑張りたいと思う」



2年 郡司貴大

「(夏のコンディションは)ちよっと疲れしている。休息は取っているが、休みはないのでだるさがない。取れない感じ。(二度目の夏合宿で)去年に比べて、気温も低く、練習する環境も僕だけじゃなくみんなもすごくやりやすい環境ではある。練習の質も上がり、全体的にしっかりこなせていると思う。(ライバルは)同学年。負けたくない。箱根では任された区間を走るようにと思っっている。逆に監督から走ってくれって言われるように頑張る。走れる選手と走れない選手の差をなくして、(先輩として)自覚を持ちたい」



2年 窪田 忍

「(夏のコンディションは)いいです。(夏合宿では)一つ一つの練習をやってみて、去年よりしっかり走れるようになってるな、と実感している。タイムを見ても早くなっているから、全体的にすごくいい練習が出来ていると思う。(2年としての自覚は)強い1年生が入ってきた、2年として負けたくないし、強い先輩もいるし、挑戦したいと思っっている。今年チームのことを考えてしっかりやっついていきたい。(ライバル選手は)油布さん。全然勝てなくて負けてばかりなので、2年生としての自覚をもって(三大駅伝では)3つ全部(優勝)したい!」



2年 岸本朋紘

「(夏のコンディションは)合宿前の練習で足を痛めてしまった。体調は大丈夫。体のためにも治ったら走りたいと思う。(二度目の合宿だが)6月の故障が長引いてしまいい合宿に影響している。あまり練習ができなくて自分としては納得できていない。駅伝はチーム戦。いくらひとりでもいいタイムで走っても、優勝はできないから2年としての自覚を持ちたい。ライバルは自分自身。自分に甘えると勝てないし、我慢するところでは我慢しない。タイムも伸びてこない。自分に勝つてから、ライバルと勝負する。箱根駅伝では、120%走りたい」



2年 湯地俊介

「(夏のコンディションは)悪くないが、少しずつ疲労が出ている。(二度目の夏合宿は)去年、夏前に故障をして思うようにできなかった。今年も故障もなく合宿に入れて去年よりも練習できる幅がちょっと広いと思う。(今年自己ベストを更新したが、まだまだ課題はある。秋口以降、自分のペースで結果残していけたらと思っっている。今年チーム全体、みんな結果を残しているが、まだ満足できる結果ではないと思っっているし、一番は駅伝。全日本ではメンバー入りして、箱根は復路をしっかりしていきたい」